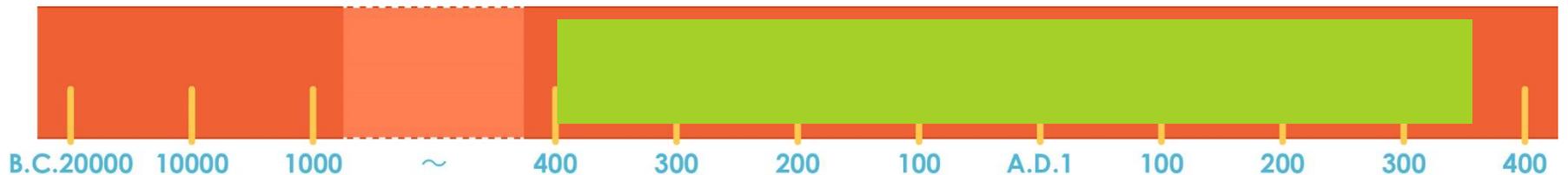


第 I 部 原始・古代
第1章 日本文化のあけぼの
2 農耕社会の成立 2

教科書 P.19～22

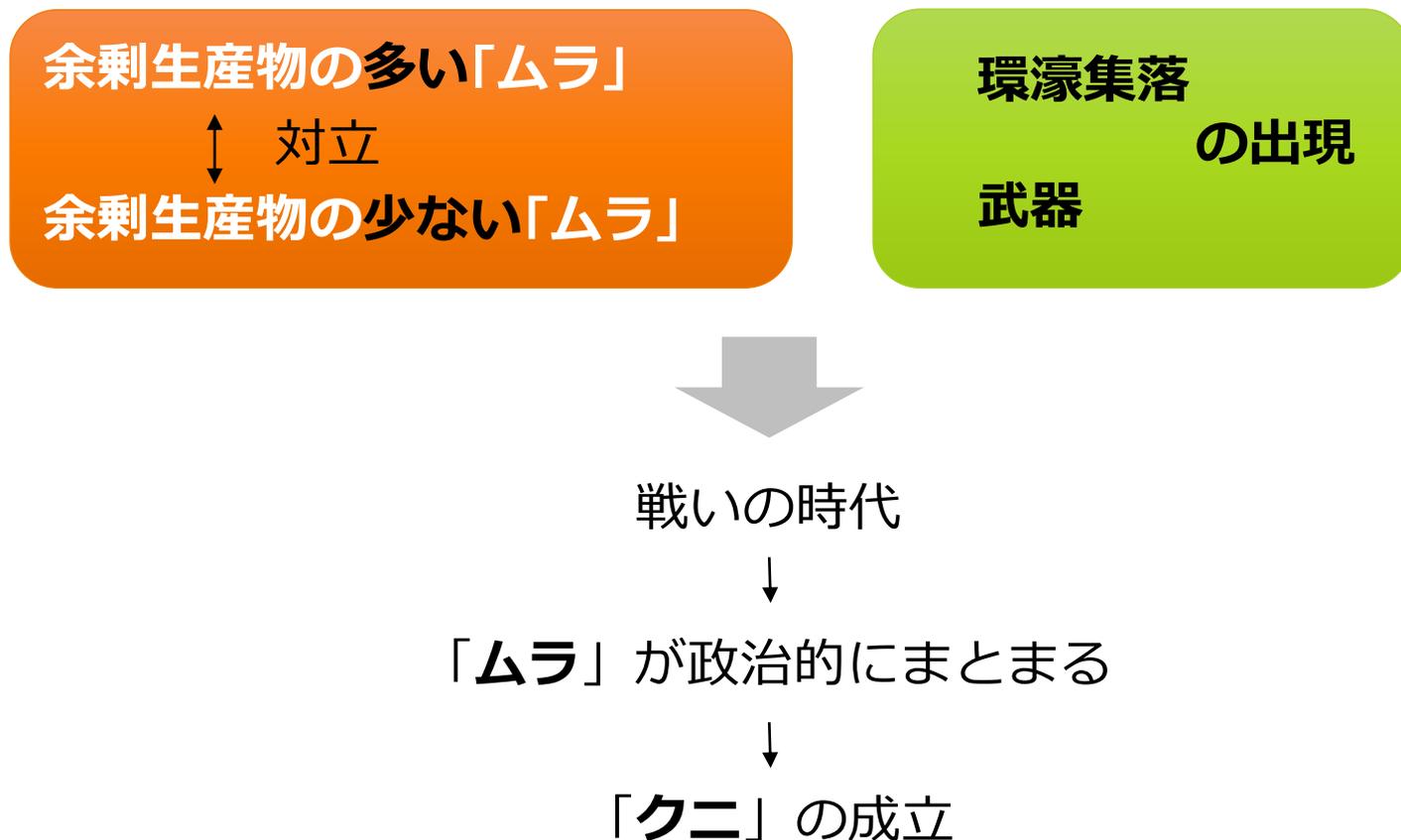
今回の学習範囲

1. 「クニ」の成立と王の出現
2. 中国の歴史書から知る倭国の姿
3. 『魏志』倭人伝と邪馬台国



1 「クニ」の成立

農耕社会の成立により(ア.余剰生産物)をめぐる戦いがおこり、各地に**王**を中心とした政治的なまとまりである「イ.クニ」が成立した。



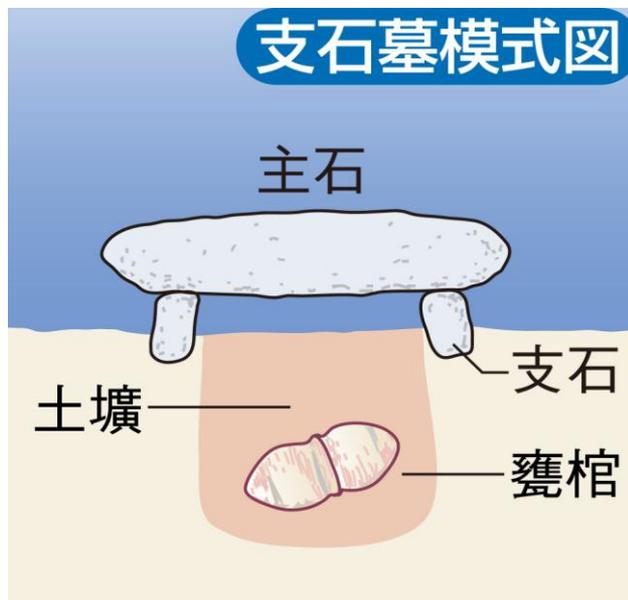
王の出現！



王・戦士・民衆の身分差のある社会 ⇔ 縄文時代は平等社会

2 王の出現→ほかの人々とは違う「墓」の出現

盛り土をした墓が出現し、**地域的な特徴**もみられた。**副葬品**の青銅製の武器や中国鏡などは**支配者の出現**を示している。



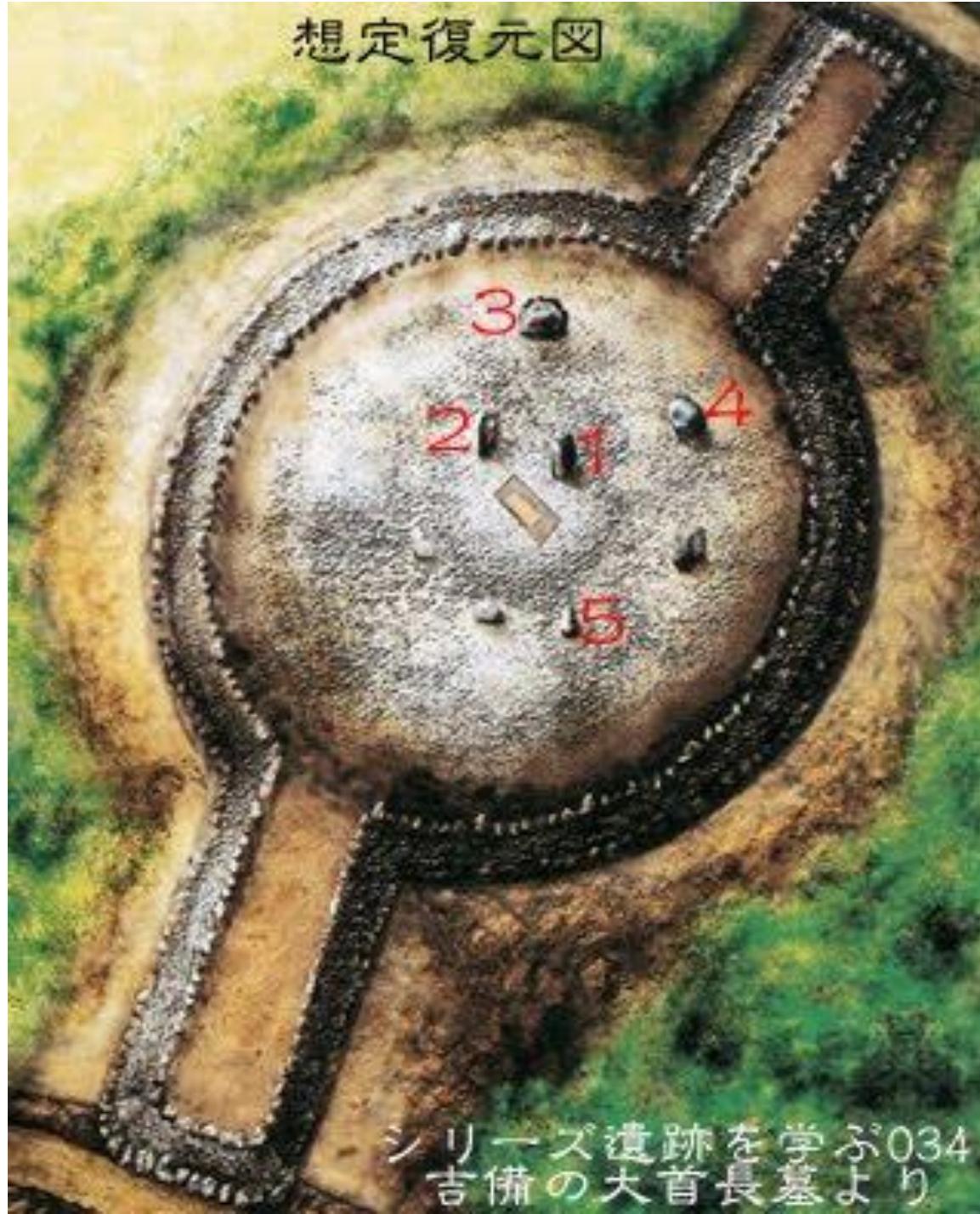
墳丘の
地域的特徴

- 支石墓（しせきぼ）・・・九州北部中心
- 甕棺墓（かめかんぼ）・・・九州北部に多い
- 方形周溝墓・・・近畿を中心に九州から東北まで
- 四隅突出型墳丘墓・・・出雲地方
- 楯築墳丘墓・・・吉備地方

四隅突出型墳丘墓（島根県）



楯築墳丘墓 (岡山県)



想定復元図

シリーズ遺跡を学ぶ034
吉備の大首長墓より

副葬品



味の強い鏡と白っぽい鏡に見えませんか？
銅鏡は主に銅 (Cu) と錫 (Sn) の合金ですが、
白い鏡のほうは、銅に対して錫の量が黄色味
の強い鏡より多く含まれています。
錫の割合が高くなると、青銅は比較的低い
温度でも溶かすことができます。でき上がる
製品は硬くなりますが、衝撃を加えられると、
割れやすくなるという欠点もあります。
実際に復元した鏡でも、溶けた青銅が冷えて
固まる間に割れてしまったものもありまし
た。ほんの数の違いでも大きな差につな
がります。青銅時代の人びとも否



3 青銅器

神を祀る儀式に使われた。

銅鐸や銅剣・銅矛・銅戈などの**青銅製祭器**が用いられた。その分布状況は、共通の祭器を用いる地域圏を示している。

資料集 p 34

祭器	中心地
銅鐸	近畿地方
平形銅剣	瀬戸内海中部
銅矛・銅戈	九州北部
細形銅剣	山陰地方

1 青銅器の出現



銅剣 細形・中細形・中広形・平形の順に大型化し、扁平化していった。根もとの突起部を柄に取り付ける。

A 使用用途と地域分布



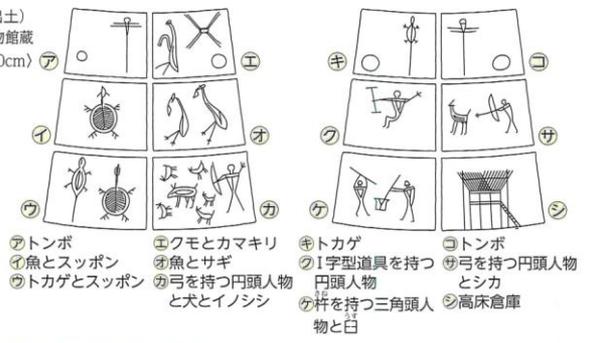
銅矛 根もとを筒状につくり、長い柄の先を差し入れる。銅剣と同じく、細形だったものが大型化・扁平化していった。



④ 青銅器の種類 銅剣・銅矛はもともと実用的な細型の武器であったが、しだいに大型化し、扁平化して祭祀具として用いられるようになった。また同じく銅鐸も大型化していった。

B 銅鐸絵画

④ 袈裟椀文銅鐸 (伝香川県出土) (東京国立博物館蔵 高さ43.0cm)



⑤ 銅鐸絵画の意味 銅鐸には動物や水田の生き物、稲作関連のものなどが刻まれている。こうした図像は「信仰の対象を表す」、「豊かな収穫を祈願する」などさまざまな解釈がある(人の頭部の表現も円形と三角形のものがある)。弥生時代の人々の生活を示す資料として重要である。

今日のつながり 豊かな収穫をあらかじめ祝う予祝儀礼や、新穀を神にささげて豊作を感謝する新嘗祭

WORK. 4つの地域に特徴的な墳丘, 祭器, おもな弥生遺跡を書きこもう。



Q. 弥生時代の西日本について何がわかる?

1 前1世紀頃の倭国

教 p 21

九州北部の倭人の「クニ」は百余国に分立し、(ウ.**楽浪郡**)に定期的に使節を送っていたことを中国の歴史書(工.『**漢書**』**地理誌**)が記している。

(日本語訳) 楽浪郡の海の先に倭人が住んでい
る。倭は百余国に分立
し、なかには漢に朝貢
する国もあつた。

夫れ楽浪海中に倭人有り、分
れて百余国と為る。歳時を以
て来り献見すと云ふ。

(『漢書』地理誌)

(注) 楽浪郡：前108年に前漢の武帝が朝鮮においた4郡の一つ。現在の平壤付近の地域。

2 1世紀頃の倭国

資 p4

倭の(オ.**奴国**)の王の使者が、洛陽で後漢の光武帝から印綬を授けられたことが(カ.『**後漢書**』**東夷伝**)に記されている。

建武中元二年、倭の奴国、貢を奉じて朝賀す。……光武、賜ふに印綬を以てす。

(『後漢書』東夷伝)

(訳)倭の奴国の王が後漢に朝貢した。……光武帝より「漢委奴国王」の印綬を賜った。

4 東アジアの自然環境とクニの形成

1～3世紀ごろ



東アジアにおける印の分布

3 2世紀頃の倭国

倭の国王帥升らが(キ.**生口160人**)を安帝に献じた。また、倭国で(ク.**大乱**)がおきたことなどが『後漢書』東夷伝に記されている。

(訳)倭国王の帥升等が生口(奴隸)160人を安帝に献上した。倭国で大乱が起きた。たがいに戦いあい、年を経ても盟主がいなかった。

安帝の永初元年、倭の国王帥升等、生口百六十人を献じ、請見を願ふ。桓靈の間、倭国大いに乱れ、更相攻伐して歴年主なし。

(『後漢書』東夷伝)

1 3世紀の東アジアと邪馬台国

3世紀になると、邪馬台国の女王卑弥呼によって倭国の大乱はおさまり、邪馬台国を中心とした小国連合が成立した。



其の国、本亦男子を以て王となす。住まること七、八十年。倭国乱れ、相攻伐して年を歴たり。乃ち共に一女子を立てて王と為す。名を卑弥呼と曰ふ。

〔『魏志』倭人伝〕

2 女王卑弥呼

卑弥呼は呪術的権威を背景に政治をおこない、魏の皇帝に使節を送って(ケ.)の称号と(コ.)を賜った。



「景初三年」銘のある
三角縁神獸鏡
(神原神社古墳出土、島根県)

……鬼道を事とし、能く衆を惑はす。年已に長大なるも、夫婿無し。男弟有り、佐けて国を治む。……景初二年六月、倭の女王、大夫難升米等を遣し郡に詣り、天子に詣りて朝献せんことを求む。太守劉夏、吏を遣し、将て送りて京都に詣らしむ。その年十二月、詔書して倭の女王に報じて曰く、「……今汝を以て親魏倭王と為し、金印紫綬を仮し、……特に汝に……銅鏡百枚……を賜い、……」と。卑弥呼以て死す。大いに冢を作る。
(『魏志』倭人伝)

3 邪馬台国の社会

『魏志』倭人伝の内容から邪馬台国の社会には身分差があり、国家的諸制度が形成され始めていたことがわかる。



かんとうい 冠頭衣(復元)



黥面文身(刺青)

至る。女王の都する所なり。……男子は大小^③と無く、皆黥面文^{けいめんぶん}身^⑦す。……租賦^{そふ}を取むに邸閣^{ていかく}有^⑧り。国々に市^{いち}有^⑨り。有無を交易^{いち}し、大倭^{だいわ}をして之^{これ}を監せしむ。女王国より以北には、特に一^{いち}大率^{だいつつ}を置き、諸国を檢察せしむ。諸国之を畏憚^{いたん}す。……下戸^{げこ}、大人^{たいじん}と道路に相逢^{あいあ}へば、逡巡^{しゆんじゆん}して草に入り、辞を伝へ事を説くには、或は蹲^{あぐさくま}り或は跪^{ひざまず}き、両手は地に扱^おり之^{こゝ}が恭敬^{きやうけい}を為す。……

4 邪馬台国の所在地論争

邪馬台国の所在地で九州説と近畿説の論争が続いている。所在地論争は、のちのヤマト政権の成立に深くかかわる問題である。

**教科書 p 22を読んでみよう。
あなたはどうか考えるだろうか？**

近畿説…3世紀前半 近畿中央部～九州北部の政治連合
→ヤマト政権へ

九州説…3世紀前半 九州北部の政治連合→ヤマト政権
に統合されたか、東遷してヤマト政権を形成した

なぜ、邪馬台国九州説と近畿説があるのか？

魏志倭人伝の示す「邪馬台国への道のり」そのままでは邪馬台国が海の中になってしまう。そこで…

- A. 魏志倭人伝の示す「距離」が間違っている → 九州説の根拠
- B. " 「方角」が間違っている → 近畿説の根拠

特集

邪馬台国はどこにあるのか？

→ p.4 巻頭地図

37

1 邪馬台国* への里程と二つの説 *【魏志】倭人伝には「邪馬臺国」と書かれている。「臺」は音の旧字。

① 邪馬台国への推定ルート 邪馬台国の立地については現在も議論が行われており、有力な候補地に九州説と近畿説がある。手がかりとなる【魏志】倭人伝の記述によると、朝鮮半島に近い対馬国から伊都国までのルートは明確になりつつあるが、その記述のまま進むと、邪馬台国がはるか南の太平洋上に存在することになる。そのため、不弥国以降のルートを、九州説では距離を、近畿説では方角をそれぞれ修正する必要があると主張している*。

* 図中のルートは直線状況による。

近畿説の主張

- 「卑弥呼の墓」と考えられる香塞古墳のある纏向遺跡が邪馬台国である。
- 卑弥呼が魏から贈られた銅鏡とは三角縁神獣鏡(→p.36)で、この鏡は近畿から最も多く出土している。
- 3世紀前半ごろにできた近畿の連合政権がヤマト政権になった。

九州説の主張

- 【魏志】倭人伝に登場する楼觀(物見やぐら)や宮室の遺構がある百野ヶ里遺跡(→p.32)が邪馬台国である。
- 三角縁神獣鏡は国産の可能性がある。
- 九州北部の邪馬台国が近畿に移り、ヤマト政権となった。

青字は【魏志】倭人伝に記された方角と距離。帯方郡から邪馬台国までは1万2000余里とされている。
 *放射状説は榎一進(九州説)が主張し、伊都国以降はすべて伊都国を起点とした距離・方角であると解釈している。

原始
弥生

北九州の弥生遺跡



資料 p 32

纏向遺跡

箸墓古墳



こんなにある！

邪馬台国の候補地



全国各地のおもな邪馬台国候補地 (表示した以外にも候補地はあります。)

まとめと振り返り

1. 「クニ」の成立と王の出現

農耕社会の成立により余剰生産物をめぐると戦いが発生した。それにより、王を中心として「ムラ」が統合して「クニ」が成立した。

2. 中国の歴史書から知る倭国の姿

中国の歴史書から、中国大陸と交流していた九州北部の倭人や倭国王の姿をうかがい知ることができる。

3. 『魏志』倭人伝と邪馬台国

邪馬台国では、国家的諸制度が形成され始めていた。そして、その所在地は、のちのヤマト政権の成立に深く関係するので論争が続いている。